

1

リスクアセスメントの手法で 危険の芽を摘み取ろう

職場では多種多様な作業が行われ、また、新たな作業方法の採用、変更及び作業の機械化などが進んでおり、それらの実態や特性にあった安全衛生対策を行っていく必要性が高まっています。職場にある様々な危険の芽（リスク）を見つけ出し、災害に至る前に、先手を打って対策を施し、リスクの除去・低減措置を行い、更なる労働災害の減少を図るための手法の一つに「リスクアセスメント」があります。

製品組立作業を行っている業種として、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業及び輸送用機械等製造業の休業4日以上死傷災害について事故の型別にみると、「はさまれ・巻き込まれ」によるものが最も多く、「転倒」「墜落・転落」

と続きます。このように製品組立作業では、設備と工作物に挟まれたり、巻き込まれる事故のほか、種々の原因による災害が発生しています。そのため、製品組立作業について、まずは危ないと思われる作業・作業場所を絞り込み、できるところからリスクアセスメントを始めてみましょう。

ここでは、製品を個別に組み立てる作業を中心に考えていきます。

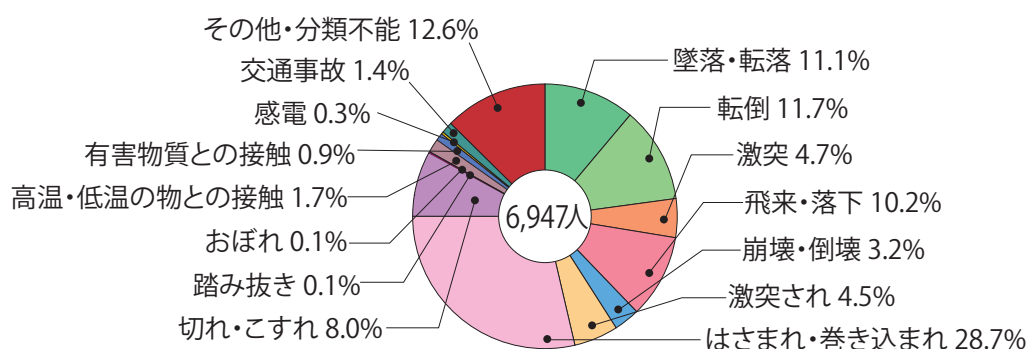
本マニュアルは、機械製造業に限らず、様々な業種で行われる製品組立作業に伴う災害を防止するためのリスクアセスメントのすすめ方をまとめたものです。このマニュアルを活用して、災害防止に努めましょう。

一般機械器具製造業、電気機械器具製造業及び輸送用機械等製造業における事故の型別労働災害発生状況(休業4日以上死傷災害)

事故の型 年	墜落・転落	転倒	激突	飛来・落下	崩壊・倒壊	激突され	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	踏み抜き	おぼれ	高温・低温の物との接触	接 触 有害物等との	感電	交通事故	その他・分類不能	合計
平成15年	709	753	314	742	195	300	2,213	537	2	2	125	42	16	97	581	6,628
平成16年	784	714	307	788	189	361	2,214	515	8	2	121	59	19	117	602	6,800
平成17年	702	792	294	786	202	334	2,119	515	6	2	117	66	15	108	700	6,758
平成18年	752	840	283	764	220	371	2,099	496	11	0	125	81	13	118	746	6,919
平成19年	773	814	329	710	219	375	1,990	553	9	2	116	64	19	97	877	6,947
19年割合(%)	11.1	11.7	4.7	10.2	3.2	5.4	28.7	8.0	0.1	0.1	1.7	0.9	0.3	1.4	12.6	100.0

資料出所：労働者死傷病報告

一般機械器具製造業、電気機械器具製造業及び輸送用機械等製造業における事故の型別労働災害発生状況(平成19年)



2

リスクアセスメントとは

リスクアセスメントとは、作業場における危険性又は有害性を特定し、それによる労働災害（健康障害を含む）の重篤度（災害の程度）とその災害が発生する可能性の度合を組み合わせ、リスクを見積もり、そのリスクの大きさに基づいてリスクを低減するための対策の

優先度を決めた上で、リスクの除去又は低減の措置を検討し、その結果を記録する一連の手法をいいます。リスクアセスメントによって検討された措置は、安全衛生計画に盛り込み、計画的に実施する必要があります。その手順は概ね次のとおりです。

